



平成 21 年 2 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社ティー・ワイ・オー
代 表 者 名 代表取締役社長兼グループ最高経営責任者
吉田 博昭
(J A S D A Q ・ コード番号 : 4358)
問 い 合 わ せ 先 取締役 経営戦略本部長
上 窪 弘 晃
電 話 番 号 03-5434-1586

平成 21 年 7 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (連 結 ・ 個 別) 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 21 年 7 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (平 成 20 年 8 月 1 日 ~ 平 成 21 年 1 月 31 日) の 業 績 予 想 に つ い て、平 成 20 年 9 月 18 日 付 「 平 成 20 年 7 月 期 決 算 短 信 」 に て 発 表 致 し ま し た 業 績 予 想 を 下 記 の と お り 修 正 致 し ま す。

な お、本 開 示 に お け る 決 算 数 値 等 は 監 査 法 人 に よ る 監 査 前 数 値 で あ る た め、監 査 後 決 算 数 値 等 と は 必 ず し も 一 致 致 し ま せ ぬ。

記

1. 平成 21 年 7 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (平 成 20 年 8 月 1 日 ~ 平 成 21 年 1 月 31 日)

連結業績予想の修正

(単 位 : 百 万 円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	15,000	700	600	150
今 回 修 正 (B)	15,900	600	440	△250
増 減 額 (B - A)	900	△100	△160	△400
増 減 率 (%)	6.0	△14.3	△26.7	—
(参 考) 前 期 第 2 四 半 期 実 績 (平 成 20 年 7 月 期 第 2 四 半 期)	14,622	926	759	548

2. 修正理由

売上高につきましては、エンタテインメント事業のコンピュータ・グラフィックス制作、株式会社円谷プロダクション及び広告映像事業の株式会社TYOプロダクションズ等、グループ各社の売上高が順調に推移した結果、当初予想より 900 百万円増の 15,900 百万円となる見込みであります。

営業利益につきましては、エンタテインメント事業のコンピュータ・グラフィックス制作及び株式会社円谷プロダクションが好調に推移するも、エンタテインメント事業のアニメーション企画・制作において、放送メディア不況等の影響を受け、当初当第 2 四半期までに予定していた複数プロジェクトが延期となりました。また、広告映像事業のTV-CMの企画・制作及びWEB事業の収益にも、当第 2 四半期より不況の影響が出始めております。以上の結果、当初予想より 100 百万円

減の600百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、上述の営業利益における増減要因と同様であり、当初予想より160百万円減の440百万円となる見込みであります。

四半期純利益につきましては、上述の経常利益における増減要因と同様であります。また、前年度において資本業務提携に伴い、株式会社田谷プロダクション株式の一部を株式会社バンダイへ譲渡したことによる特別利益を計上したため、当社実績に対して過大となった中間納税が影響を与えた結果、当初予想より400百万円減の250百万円の四半期純損失となる見込みであります。

なお、通期（連結）業績予想については、現時点において平成20年9月18日付「平成20年7月期決算短信」にて発表した数字から修正はございません。現段階では、景気減速の影響が大きいという観測と小さいという観測が並存しております。上述の通り、延期となったエンタテインメント事業におけるテレビアニメの当第3四半期以降の受注状況や、広告映像事業及びWEB事業における当社グループのメインクライアントの動向を見極めるには、今後数ヶ月を要するものと考えられます。通期業績予想については現在精査中ではありますが、今後の市場動向及びグループ各社の業績動向を踏まえた結果、修正が必要である場合には速やかに開示いたします。

3. 平成21年7月期第2四半期累計期間（平成20年8月1日～平成21年1月31日）

個別業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想（A）	1,500	250	220	200
今回修正（B）	1,630	490	500	430
増減額（B－A）	130	240	280	230
増減率（％）	8.7	96.0	127.3	115.0
（ご参考）前期第2四半期実績 （平成20年7月期第2四半期）	1,408	348	342	671

4. 修正理由

売上高につきましては、前年度におけるグループ各社の業績が、業績予想の作成時より好調に推移した結果、グループ各社からの配当金収入が増加いたしました。以上の結果、当初予想より130百万円増の1,630百万円となる見込みであります。

営業利益につきましては、上述の売上高における増加要因と、地代・家賃等のコスト削減を図った結果、当初予想より240百万円増の490百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、営業利益と同様であり、当初予想より280百万円増の500百万円となる見込みであります。

四半期純利益につきましては、経常利益と同様であり、当初予想より230百万円増の430百万円となる見込みであります。

なお、通期（個別）業績予想については連結と同様であり、現時点において平成20年9月18日付「平成20年7月期決算短信」にて発表した数字から修正はございません。通期業績予想については現在精査中ではありますが、今後の市場動向及びグループ各社の業績動向を踏まえた結果、修正が必要である場合には速やかに開示いたします。

以上